

三遠南信地域の港 三河港の現状 (2)

1. 三河港の港湾管理者と港湾計画

三河港の港湾管理者は港湾法33条に基づいて愛知県(三河港務所)となる。港湾管理者は「港湾の開発、利用および保全、港湾に隣接する地域の保全」(港湾法3条3)に関する計画を定める。港湾計画は10年から15年の将来を目標とするもので、三河港では、平成23年に「平成30年代前半を目標年次」(同計画)とする改訂を行っており、来年度に次の改訂年次を迎えるとのことである。計画の柱として、

- 国際的な物流・産業拠点の形成
 - ・自動車流通港湾機能の拡充
 - ・コンテナ貨物を取り扱う多目的国際ターミナル など
- 魅力ある質の高い生活環境空間の創出とみなとまちづくりの推進
 - ・交流拠点やレクリエーション空間の確保
- 環境共生・循環型社会づくりへの貢献
 - ・三河湾の生態系の維持など
- 地域への安全・安心の提供
 - ・大規模地震対策、風水害に対する港湾機能の確保
- 港湾空間のゾーニング
 - ・物流ゾーン、生産ゾーン、緑地・レクリエーションゾーン、環境保全ゾーンの指定が掲げられている。

三河港全貌 (航空写真)



(愛知県三河港務所提供)

2. 三河港の港勢 ～取扱貨物量および品目～

平成23年度改訂港湾計画において、目標年次(平成30年代前半)における計画諸数値は右の通りである。

三河港の取扱貨物量は、平成30年度で内・外貿計で23,535千トン。平成28年度から微増傾向にある。三河港の取扱貨物の特徴は自動車の占める比率が高いことにある。「2018年まで自動車の輸入台数・金額が26年連続日本一」「国内シェアは50%超、台数も増加傾向で、輸出台数も安定的に推移」(同港務所資料)。

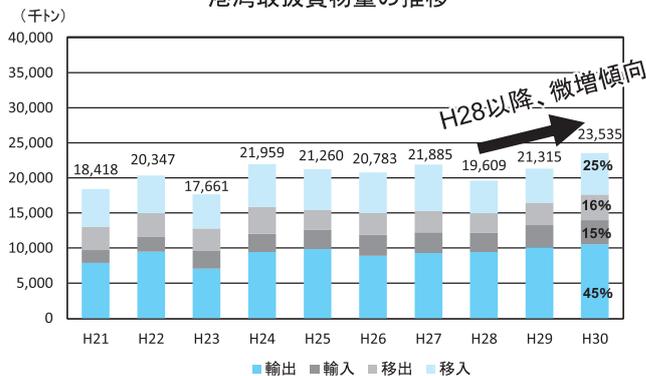
次頁の通り(平成30年)、輸出で完成自動車のシェアは95%、輸入においても完成自動車は64%を占めている。国内メーカーは、トヨタ、スズキ、三菱の生産拠点が周辺にあること、「日本列島の中心という好立地」と「温暖な気候で雪が降らないこと」などから、フォルクスワーゲン、ボルボ、FCA(フィアット・クライスラー・オートモービルズ)、ジャガー・ランドローバー、プジョー・シトロエン、メルセデスベンツなど海外18ブランドの拠点が置かれている。

港湾計画目標数値

取扱貨物量	外 貿 (うち外貿コンテナ)	2,050万トン (40万トン(7万TEU))
	内 貿	1,780万トン
	合 計	3,830万トン
	船舶乗降旅客数等	5万人

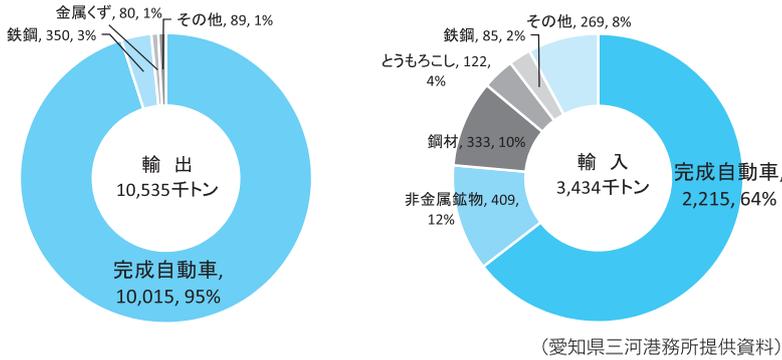
(三河港港湾計画(H23改訂))

港湾取扱貨物量の推移

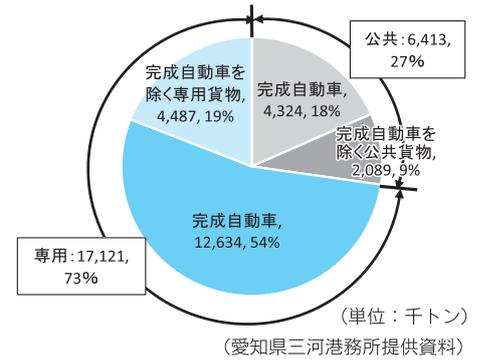


(愛知県三河港務所提供資料)

外貨貨物品目別状況（H30年）



公共・専用別貨物量・割合（H30年）

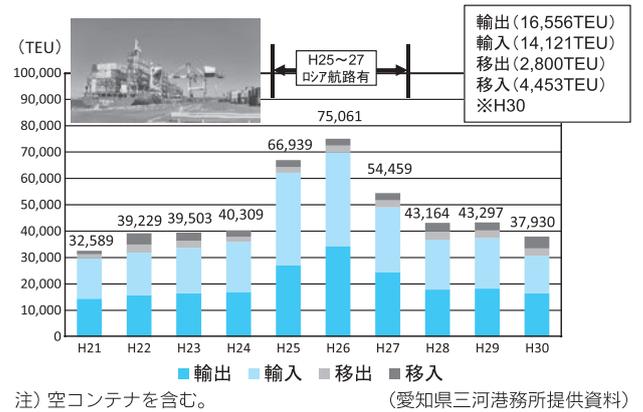


2. コンテナ貨物量は減少傾向

港湾貨物の主力と期待されているコンテナ貨物は、平成26年度の75千 TEU をピークに減少が続いている。その要因として同港務所では、「ロシア航路の廃止、金属機械工業品（輸出入）、木製品（輸入）、製造工業品（輸入）、自動車部品（輸出）等の減少」としている

※ TEU = ISO 規格20フィートコンテナに換算したコンテナ数量単位

コンテナ貨物量の推移



3. 三ヶ日豊橋道路への期待

高速道路を経由して豊橋市中心部へ行く場合、東名高速豊川インターからはやや距離があり、渋滞に遭遇することがある。三河港へのアクセスは「東名高速道路東名音羽蒲郡 IC または同豊川 IC」であり、三河港直背後の国道23号は「慢性的に混雑を呈し、安全性や物流に支障をきたしている」（同資料）との同港務所の認識である。

三河港と東名高速三ヶ日 JCT を起点・終点とする浜松三ヶ日・豊橋道路の構想が立てられ、実現に向けて取り組みが進められてきた。

最近の状況は、本年6月に国土交通省中部地方整備局が社会資本整備審議会道路分科会中部地方小委員会において同道路の3ルート案を公表。同整備局は地域住民や道路利用者を対象としたアンケート調査を11月6日まで実施している（浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会 HP）。三遠南信道の整備と併せ、当地域から三河港および豊橋地区や静岡県浜名湖西地区との往来が大幅に改善し、当地域の物流面や産業界へのメリットは多大なものになると期待できる。

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)

浜松三ヶ日・豊橋道路建設 ルート案



(浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会 HP)